

# 立西巻き



尼崎市立立花西小学校  
2026.6.5 (金)

No.12

～ 校長先生つぶやき、つぶやく (校長だより) ～

## 10分間の幸せ空間

「この人の名前何だったか覚える？」読み手の4年生が質問をしました。

「は～い。」 「はい。〇さんどうぞ。」 「・・・」  
挙手し、当ててもらってうれしそうな1年生。ところが、こたえが出てきません。そこで、4年生は  
「べ? 『べ』なんだったかな?」とヒントを与えます。



その後、すぐには、こたえを伝えることもなく  
「じゃ、続きをよんでみるよ。わかるかもね。」と言って  
また、お話の続きを読んでもらいました。聞き手の子どもたち  
と私は、すっかり本の世界に引き込まれていました。

10分後、チャイムがなって、  
「続きはまた明日ね。」となり

今日の読書タイムが終わりました。



ああ。なんて素敵な空間だったんだろうと、とてもとても  
感動しました。2年前は、聞き手だった2年生の彼が、2年  
後には、こんなに上手な読み手となっています。

すっかりお兄さんになり、優しく、あたたかく下学年に接す  
る姿。読み手として、その本の楽しさを表現する姿。2年間の  
育ちを感じたところです。まるで恩おくりのように「してき  
てもらった側から、してあげる側」へと成長した彼の姿に、  
お家の人や先生達、よもよもさんなど関わってくださる全て  
の人達のあたたかい見守りまでもが想像できました。

「先生。明日もやってるよ。ぜひ、きてね。」とお誘いまで受  
けました。小さな472人全ての子どもたちの姿に、大きな  
喜びを見つけに、今日も校内を歩いてみようと思います。

## ちょボラのすすめ

「校長先生。〇くんがゴミ拾いをしてくれたんですよ。」  
登校見守り隊みるみるさんが教えてくださいました。



先日の朝会では、ちょっとだ  
けボランティア『ちょボラ』のお  
話をしました。そのせいもあつて  
か、こういったエピソードを聞いて、  
うれしくなりました。

さて、校内を歩いていると、  
「何で、こんなところに落ちている?」と思うことがあります。  
ペットボトル、マスク、ぞうきん、えんぴつ、けしごむ・・・ひろ  
って回ります。…というか、もしかして、わざと下に置いてあ  
るかもしれない(?)という物が一時間後もまだ、そこにあ  
ることが「一番のなんで??」です。どうも置いているわ  
けではありません。

「絶対にだれか気づいてるやろ! 何で誰も拾わんねん。」  
と、プチ怒りさえこみあげてきます。ゴミが落ちていることに  
気付いたら、そっと拾って、捨てておく。落とし物に気付いたら  
拾って「これ、ちがう?」とたずねてみる。これって、当たり  
前の行動じゃないのか。なぜそれができない。なぜ、放つて  
おく。知らんふりをする。校内に500人くらいいて、これ  
か・・・と現状を実感するところです。(もちろん、全員がそう  
ではありません。先生方は、指導もしてくれているでしょうし、  
ちゃんと気付いて、拾ってくれる子どももいます。)

子どもたちには、見て見ぬふりをする人にはなってほしく  
ありません。気づいたら、自ら行動できる人になってほしい。  
それは、立西つ子を育てる全ての大人の願いでしょう。  
「ちょっとだけボランティア⇒ちょボラ」と子どもたちには  
伝えましたが、一人ひとりのすこしの親切、やさしさが大き  
なエネルギーとなることを学んでほしいと思っています。

一か月後は、学校の誕生日。小さな親切、やさしさが  
つまった学校となって、学校誕生のその日をお祝いしたい  
と考えています。